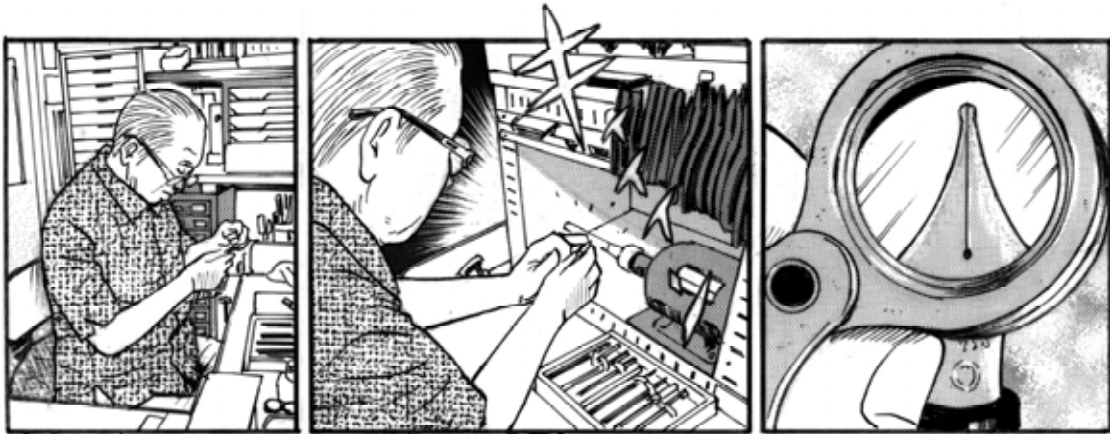


まちこうは  
葛飾ブランド「葛飾町工場物語」

# 万年筆の修理・調整は 約55万本 ～久保工業所～

作・桂田 健治



久保工業所  
久保幸平社長(81歳)



ここが  
久保社長の技を  
紡ぎだす  
仕事場だ



堀切商店街の裏手の  
静かな住宅地にある  
十坪ほどの作業場



通算で  
55万本もの万年筆の  
修理・調整を  
手がけてきたことにな  
るかな

万年筆に携って  
60年以上  
修理専門になって  
30年…



万年筆づくりを  
一生の仕事にしよう  
という気概で  
上京したんだ

「アイツは  
手先が器用だから  
工場に向いてる」って  
親戚と話が  
ついてたのかな



静岡出身、  
昭和23年、19歳で上京  
最初は堀切二丁目の  
親戚のペン工場に入社した



ペン先だけでなく  
軸などを含む  
万年筆のすべてを  
総合的に扱ってるのは  
久保工業所ぐらいかな



昭和55年に  
独立  
現在  
万年筆修理業者は  
国内に数えるほどだけ

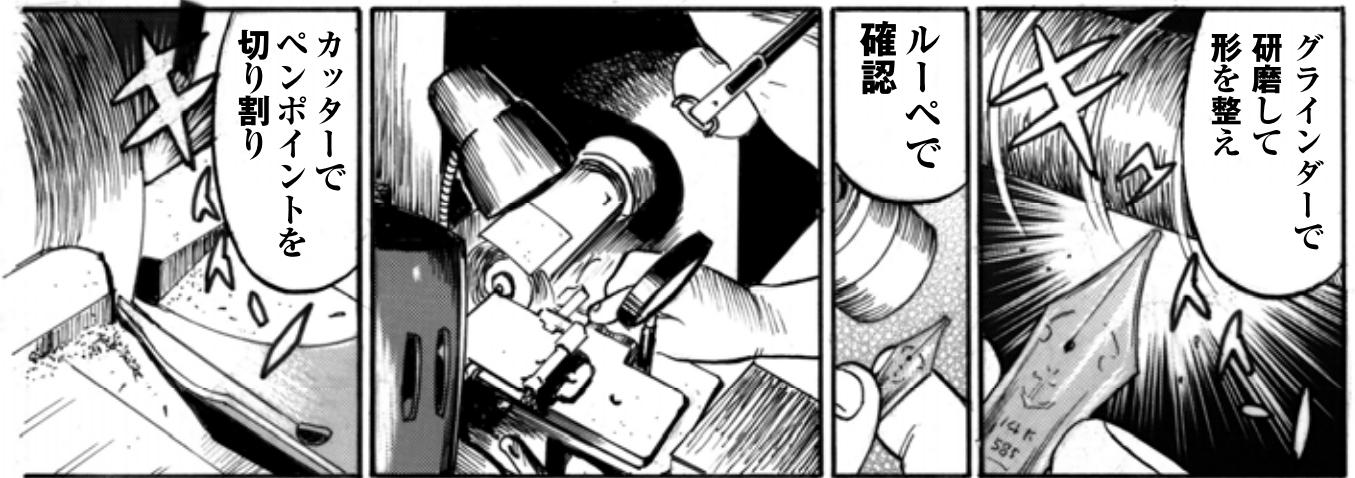




ペンポイントに  
イリジウムを  
溶接し

その修理には  
今では希少金属である  
イリジウム合金を用い

万年筆の命は  
ペンポイント(ペン先)



カッターで  
ペンポイントを  
切り割り

ルーペで  
確認

グラインダーで  
研磨して  
形を整え



それでも調整は月200本  
修理は月100本ほど行ってるね

今は高齢になったので  
仕事はセーブしてるけど

何度も  
書き味を  
確認し

最後にこの  
長年の経験から  
生みだした  
定規で

切り割りの  
具合を  
調整する



以前は百貨店や  
文具店からの  
依頼が多かったが

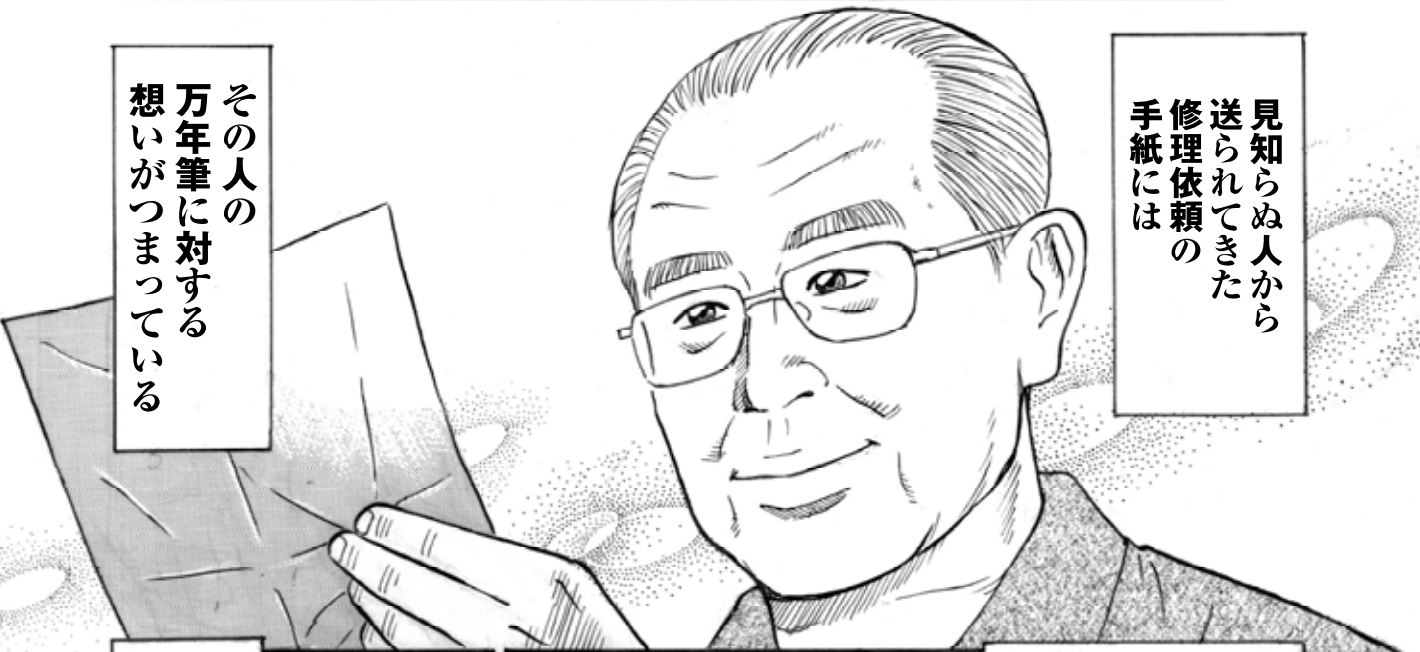
最近  
は直接訪ねて  
来られたり

郵送してくる  
個人の方も  
多くなった



もうメーカーも  
修理できないし  
在庫もない  
調べると  
久保工業所に  
ありそうだってね

確かに過去の  
整品も部品も  
メーカー以上に  
持ってます



見知らぬ人から  
送られてきた  
修理依頼の  
手紙には

その人の  
万年筆に対する  
想いがつまっている

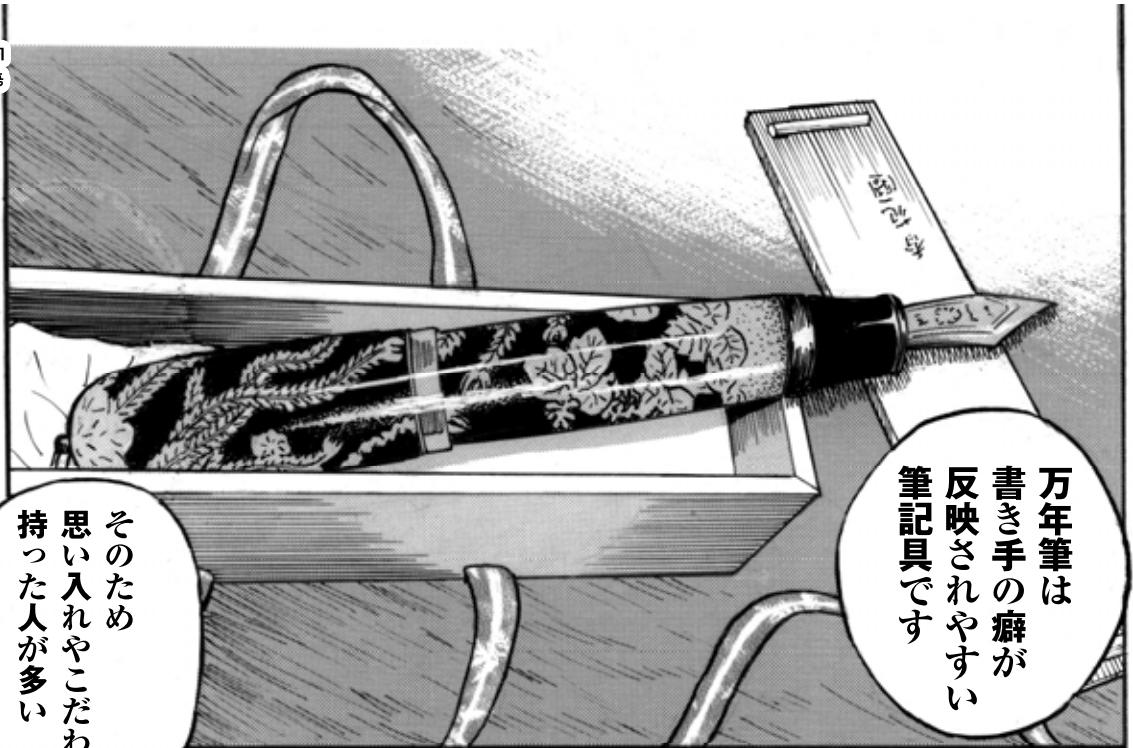


「久保幸平調整」は  
一種の  
ヴァインテージだ



「現在おそろく  
世界一の  
万年筆修理職人で  
あろう」と  
業界では  
知らぬ人はいない

数々のテレビ番組に出演



万年筆は  
書き手の癖が  
反映されやすい  
筆記具です

そのため  
思い入れやこだわりを  
持った人が多い



これからも  
そういう人達の  
想いに  
答えていきたい